

 **太陽ホールディングス株式会社**
TAIYO HOLDINGS CO., LTD.

〒176-8508 東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
TEL: 03-5999-1511 (代表) FAX: 03-5999-1501
<http://www.taiyo-hd.co.jp>

未来が変わる。日本が変わる。
チャレンジ 



社会を照らす、未来を照らす
CSRレポート 2017

 **太陽ホールディングス株式会社**
TAIYO HOLDINGS CO., LTD.

明日の地球にできること

太陽HDグループは、ソルダーレジストのトップメーカーです。当社グループの製品は、一般の方の目に触れる機会は多くありませんが、家庭やオフィス、その他生活の身近にあるあらゆる電子機器に使用され、安全で豊かな暮らしを支えています。ステークホルダーから信頼され、共感される企業であり続けるために、これからも事業を通じて社会の持続的な発展に貢献していきます。



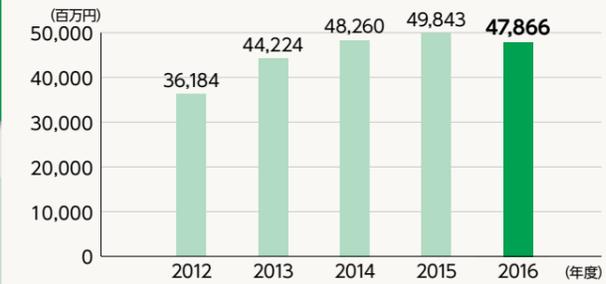
■ 会社概要 (2017年3月31日現在)

社名：太陽ホールディングス株式会社
 英文社名：TAIYO HOLDINGS CO., LTD.
 本社所在地：東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
 電話番号：03-5999-1511(代表)
 設立年月日：1953年9月29日
 事業内容：持株会社、グループ全体の経営方針策定および経営管理
 資本金：91億7,120万円
 従業員数：連結1,256名/単体85名

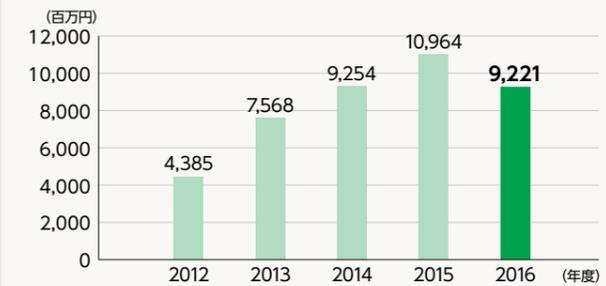
■ プロフィール

太陽HDは1953年に印刷用インキの製造販売会社として設立し、その後1976年にエレクトロニクス業界向けのソルダーレジストを主力製品とする事業に大転換いたしました。現在は商号を設立時の「太陽インキ製造株式会社」から「太陽ホールディングス株式会社」に変更し、2013年4月には経営理念の改定を行うなど、常に時代にあわせて進化を続けていますが、設立時の「太陽のように社会を照らし、人々の役に立つ存在でありたい」という想いはそのままに受け継ぎ、これからも皆様に愛される企業グループを目指していきます。

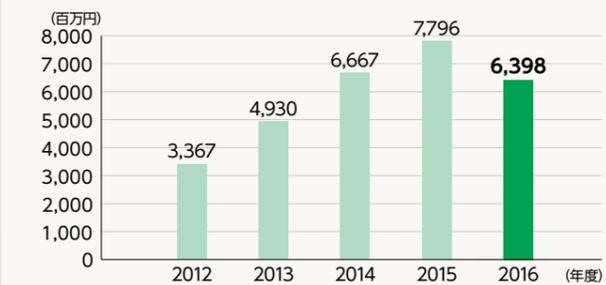
■ 売上高の推移(連結)



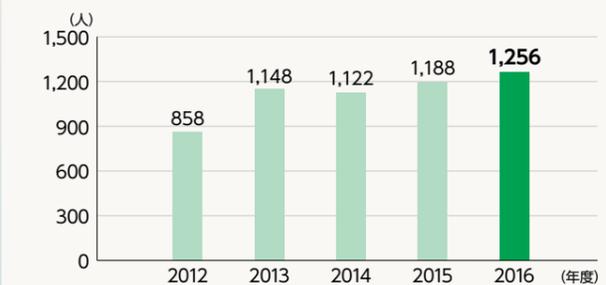
■ 営業利益の推移(連結)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益の推移(連結)



■ 従業員数の推移(連結)



CONTENTS

- 03 トップコミットメント
- 04 経営理念・CSR理念・行動規範
- 05 特集：働きやすい職場、
過ごしやすい環境の形成を目指して

マネジメント

- 09 2016年度CSR活動の実績と今後の目標
- 10 コーポレートガバナンス
- 10 コンプライアンスに関する取り組み
- 11 リスクマネジメントに関する取り組み

社会性報告

- 12 株主の皆様との関わり
- 13 地域・社会との関わり
- 15 お客様との関わり
- 15 お取引先との関わり

環境報告

- 16 環境方針と環境マネジメントシステム
- 17 環境負荷低減の取り組み
- 19 事業活動と環境との関わり
- 20 法規制測定データ集

■ 編集方針

本レポートでは、太陽ホールディングスグループ(以下、太陽HDグループ)の地域貢献の取り組みを特集としてご紹介し、続けて「マネジメント」「社会性報告」「環境報告」の3章を柱にしています。また、専門的でわかりにくい用語については、「用語解説」を設け補足しています。

■ 対象期間・対象範囲

本レポートの活動対象期間は、2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)です。対象範囲は、太陽ホールディングス(以下、太陽HD)本社ならびに太陽インキ製造(以下、太陽インキ)本社、太陽グリーンエナジー(以下、太陽GE)、太陽HD嵐山事業所(以下、嵐山事業所)、太陽インキ北九州事業所(以下、北九州事業所)のマネジメント・社会性・環境の3側面における活動です。活動対象期間が異なる場合は、該当箇所に別途記載しています。

■ 発行年月

2017年6月(次回予定:2018年6月)

新たな事業の創出とグループの成長を通じて、社会的責任を果たしてまいります。

2016年度を振り返って

太陽HDグループが永続的に成長していくためには「自律型人材の育成」と「新規事業の創出」が重要であり、優秀な人材を育てていくには会社として「職場環境」「公正な評価・給与」「仕事のやりがい」この3つの施策をバランスよく取り続けることが必要であると考えております。その考えのもと2016年度は、嵐山事業所の全面リニューアルが完了し、各種福利厚生制度を充実させ、その利用を積極的に促すなど、社員が働きやすく、個々の能力や適性が発揮できる環境づくりを行いました。

なお、太陽インキ本社においても、経年劣化に伴い稼働効率の落ちた設備から高効率機器への交換を推進し、使用電力の削減に加え周辺環境にも配慮した設備投資を行いました。

また、2015年10月にドライフィルム型製品の量産工場として竣工した北九州事業所においては、エネルギー使用量の可視化装置など環境に配慮した設備を整え、試作品などの生産を経て2016年夏から製品の出荷を開始し、国内製造拠点におけるBCP機能を補完する役割も担っています。

新規事業の創出

当社グループは、主力製品のソルダーレジスト関連の製品については市場シェアの拡大、また、その他の製品についてはソルダーレジストに続く利益の柱となるような新製品を継続的に生み出し、迅速に事業化する体制を構築するべく取り組んでいます。新製品の開発は、営業部門や生産現場を含めて事業そのものを創り出していく「事業開発」と同義であると考えており、社員全員と共有しています。

現在も多数の製品の事業化を進めており、そのなかでも感光性カバーレイは4年がかりで実用化し、本格受注を開始しました。感光性カバーレイは、電子機器の軽薄短小化に伴い柔軟で折りたたみ収納ができるような基板が増えているなか、その市場ニーズに応えるため、微細加工性と耐熱性・折り曲げ性を両立させた製品です。今後も品質・安全を第一に「新規事業を創出」していきます。

CSRの理念を念頭に

当社グループは創立以来、株主、顧客、取引先をはじめ多くのステークホルダーの方々の信頼を得て発展してまいりました。今後も引き続き当社グループがその信頼に応え、共に発展していくために、すべての役員、社員が倫理・法令を遵守し、常に前向きな姿勢で事業活動に取り組み、企業の社会的責任を果たします。この責任を果たしていくために、「CSR理念」「行動規範」を定め、各種マネジメントシステム・委員会からなるCSR組織で様々なCSR活動を行っています。

「エネルギーの消費者から生産者へ」という取り組みのもと運営している「嵐山水上太陽光発電所」は操業2年目を迎えました。当発電所は自然環境に配慮した形で水上に設置しており、高効率で電力を発電しています。食糧問題への取り組みとしては、嵐山事業所の一角の植物工場では野菜の栽培を継続して行っています。また、地域のイベントやボランティア活動への参加、社員食堂での地元食材の使用など、地域社会に根差した活動を行っています。これからも一層、役員、社員一同、積極的なCSR活動に取り組み、社会から信頼される企業を目指してまいります。

2017年 6月

代表取締役社長

佐藤 英志



経営理念

我がグループの「あらゆる技術」を高め、革新的な製品をもって、夢あるさまざまなモノをグローバルに生み出し、楽しい社会を実現します。

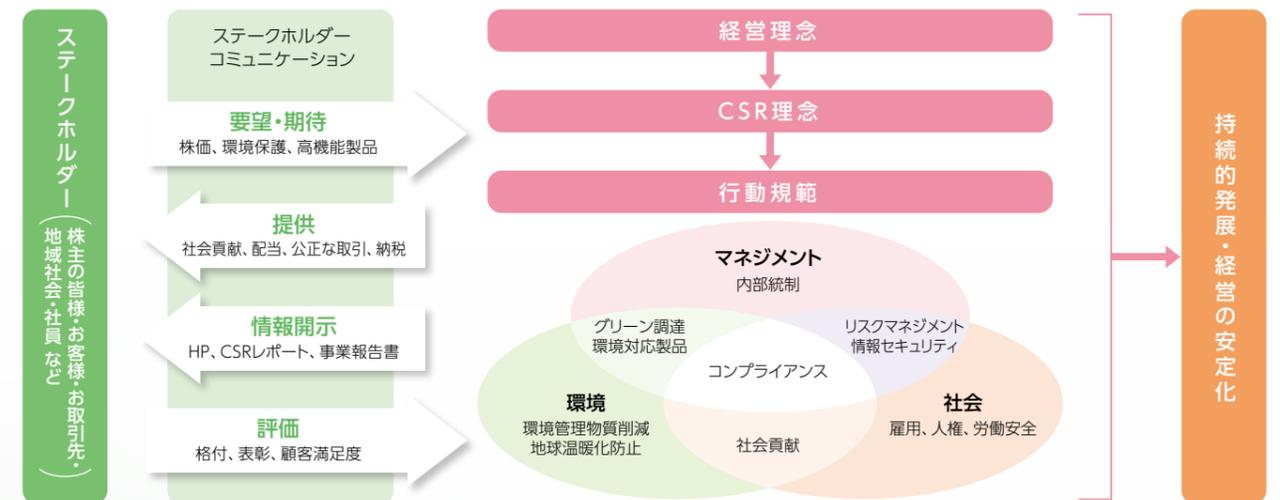
CSR理念

わが社は法令遵守、環境保護、品質管理の徹底、社会貢献を含め企業の社会的責任を全うします。

行動規範

CSR理念を実現させるために、次の各項を定め行動します。

1. 倫理・法令遵守	私たちは、事業活動にあたって法令その他の社会的規範を遵守し、その精神を理解して公平かつ公平に行動します。
2. 職場の環境	私たちは、社員の人権を尊重し、公平で差別のない職場をつくりまします。
3. 公正な取引の実施	私たちは、全ての取引先に誠意をもって接するとともに公平かつ適正な取引条件を設定し、事業活動を行います。
4. ステークホルダーの尊重	私たちは、常に全てのステークホルダー(利害関係者)の立場を尊重し事業活動を行い、また、開示すべき情報は適時・適切に公表します。
5. 秘密の保持	私たちは、取引先の秘密情報、自社の秘密情報ならびに個人情報に漏洩しないように管理を行います。
6. 品質の確保(品質方針)	私たちは、お客様に満足していただける品質と安全性を確保し提供します。
7. 環境の保全(環境基本理念)	私たちは、社会的責任遂行の一環として地球環境保全に努め、環境と調和した事業活動を行います。
8. 社会貢献活動	私たちは、社会の一員として社会貢献活動を行います。
9. 知的財産権の尊重	私たちは、創作したまたは保有する知的財産権を適切に保護するとともに第三者の知的財産権も尊重します。
10. 反社会的勢力の排除	私たちは、反社会的勢力に対し、不法・不当な要求には一切応ずることなく、毅然とした態度を貫きます。



働きやすい職場、過ごしやすい環境の形成を目指して

当社は、社員一人ひとりが活き活きと働くことができるように、「職場環境」「仕事のやりがい」「公正な評価・給与」の3つを整えています。ここでは「職場環境」について、当社の施設や制度など、様々な取り組みをご紹介します。

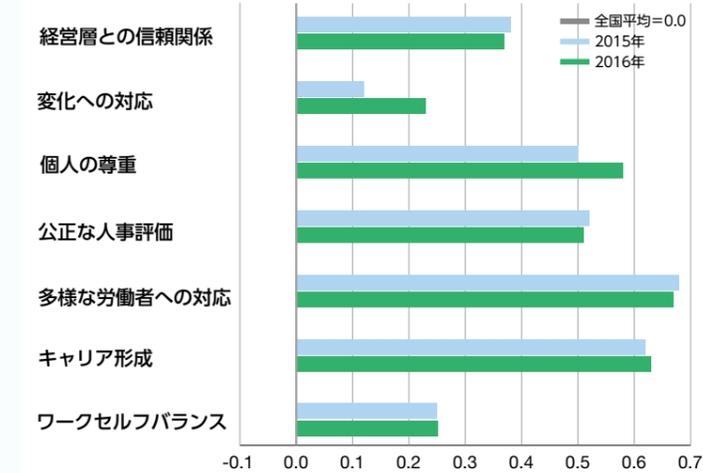
太陽HDの働き方改革の取り組み

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 風通しのよいオフィス空間 ● 新規事業を後押しする研究施設 ● リラックスできる社員食堂 ● 子育てと仕事の両立を支援する「たいよう保育所」 ● 働くママ・パパを応援する子育て支援制度 ● 社員の気づきを促す研修・教育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 充実した福利厚生 ● 旅行費用補助制度 ● 家族参加の社員旅行 ● 健康促進制度 ● レクリエーション制度 |
|--|---|



太陽HDの働きやすさはデータが証明しています

● 2015・2016年 ストレスチェック結果



実施期間：2015年10月14日～10月23日、2016年10月12日～10月21日
 対象：太陽ホールディングス全従業員（社員、契約社員、再雇用社員含む）
 実施機関：アイエムエフ株式会社 ※全国平均をゼロとした時の数値（SDスコア）です

● 直近3年間の新卒入社員定着率

97.4%

算出方法：
 現在の在籍人数* ÷ 2014～2016年度新卒入社人数
 *2017年3月31日現在

当社ではストレスチェックを毎年実施しています。すべての項目において全国平均(0.0)を上回っており、さらに年々良好になっていく傾向にあります。また、新卒社員定着率も高い数値を示しています。

かねてより、社員がより働きやすい環境をつくるため、オフィスや研究施設の整備はもちろん、休日の充実や家族も対象となるような、社内だけにとどまらない様々な福利厚生の制度を整えてきました。

根底には、会社が成長するために最も大切なのは自ら考え、行動できる「自律型人材」を育成すること、その「自律型人材」が育つには、「仕事のやりがい」「公正な評価・給与」「職場環境」の3つを整えることが不可欠という考えがあります。

風通しのよいオフィス空間

執務スペースは、部署の垣根を越えて気軽にコミュニケーションが取れるように仕掛けています。嵐山事業所では壁を取り払い、オフィス中央にはリフレッシュスペースとして書棚や卓球台などを設置しています。ここで浮かんだアイデアを逃さないよう、柱や壁はホワイトボードとして書き込める仕様になっています。

和室のミーティングルームも設置し、自由な発想を誘発させる環境づくりに努めています。

ここに書き留められたアイデアが、新たな開発につながることも…！



本格エスプレッソが味わえるだけでなく、書棚、卓球台、サンドバッグも置かれたリフレッシュスペース。ちょっとした気分転換で、仕事の効率が上がります



雰囲気ががらりと変わる和室のミーティングルーム。障子を開けるとホワイトボードが出現！

新規事業を後押しする研究施設

研究開発拠点である嵐山事業所において、新規事業の創出を強化するため、機能的かつ効率的な施設への全面改装を行い、2016年5月31日に「嵐山ラボラトリー」として完成しました。

各種分析装置、計測機器、さらに作成したデバイスの評価装置を備え、一貫した研究開発をスピーディーに行える環境を実現しました。



最先端の設備が整った「嵐山ラボラトリー」では、日々研究開発が行われています

リラックスできる社員食堂

各事業所にある社員食堂では、単なる食事の場ではなく、新たな発想を生み出せるような明るくリラックスできる雰囲気を演出し、社員が自然と足を向けたい空間にしています。

太陽インキ本社および嵐山事業所の社員食堂では、「地産地消」として、地元の食材を使用し、オーダーメイドのテーブル・椅子などには埼玉県産の杉やヒノキが使われています。



落ち着いた内装と木製のインテリアが心地よい太陽インキ本社の社員食堂「太陽CAFE」。新鮮な地元野菜のサラダバーが人気です



ランチでリフレッシュ！

今日は何を食べようか？通勤中にスマートフォンで献立をわくわくしながらチェックすることから、私の一日が始まります。メインのメニューは魚料理、肉料理、麺類の3種類から毎日選べます。

「太陽CAFE」は壁一面が窓で、昼食時には暖かな光で包まれます。仕事の話から恋愛相談まで、様々な会話に華を咲かせながら食べるランチは格別です。雑談をきっかけに、実験をうまく進めるヒントが得られることも多々あります。

パッケージマテリアル部 工藤



太陽HDの働き方改革の取り組み

- ・風通しのよいオフィス空間
 - ・新規事業を後押しする研究施設
 - ・リラックスできる社員食堂
 - ・子育てと仕事の両立を支援する「**たいよう保育所**」
 - ・働くママ・パパを応援する**子育て支援制度**
 - ・社員の気づきを促す**研修・教育**
- ・充実した**福利厚生**
 - ・**旅行費用補助制度**
 - ・**家族参加の社員旅行**
 - ・**健康促進制度**
 - ・**レクリエーション制度**

子育てと仕事の両立を支援する「**たいよう保育所**」

嵐山事業所の隣接地に、子育てと仕事を両立させたい社員への福利厚生の向上として開設した「たいよう保育所」があります。建物の外壁や内装、家具には埼玉県の柔らかい木材「西川材」を使用し、子どもたちが安全に遊ぶことができる室内になっています。

社員の子ども以外にも近隣の待機児童をお預かりし、また、年間を通して季節のイベントを行っており、子どもたち、社員、会社、地域がともに成長できる場として活用されています。



ぬくもりを感じる内装の木材には、埼玉県産の柔らかいスギとヒノキを使用。子どもたちが安全に遊ぶことができます。建物内への電力供給には、太陽光パネルで発電した電気を使用。安全と環境に配慮した設計です



「たいよう保育所」の外観。隣には畑や里山をつくり、子どもたちが地域や自然と触れ合える環境を整えました



季節のイベントは子どもたちに大好評。節分の日には、社員が鬼に扮して子どもたちのもとへ登場！

働くママ・パパを応援する**子育て支援制度**

産前産後休暇制度、育児休業制度、時短勤務制度、看護休暇制度など、子育てをする親にとって充実した制度を実施しています。

また、本人およびその子どもの結婚が対象の結婚祝い金や、一人につき最大100万円を支給する出産祝い金なども用意しています。

●直近10年間の産休・育休後の職場復帰率

100% ※2017年3月31日現在

社員の気づきを促す**研修・教育**

毎年、東日本大震災の被災地で新入社員研修を行っています。農業、林業、漁業といった第一次産業の体験や、復興を目指す地域の方々とのふれあいのなかで、「自分たちにできる社会貢献」「20年後を見据えた新規事業の創出」をテーマにチームで企画を練り、今年は社内での事業化を目指す2つの企画が生まれました。

地域のお祭りや小学生向けの社会科見学で行っている「化学実験教室」は、以前この研修で生み出され、実行、継続されている企画のひとつです。

※「化学実験教室」については14ページを参照。



林業の体験では、森林に入り、自分たちの手で間伐を行いました



雑草の生い茂る地を耕し、畑を一からつくりました。達成感とともに、農業の苦労を実感

充実した**福利厚生**

旅行費用補助制度

年間一人につき3泊まで、プライベートの宿泊費用の一部を補助する制度です。社員本人だけでなく、配偶者や子どもの宿泊費用も補助の対象です。

旅行に行くことで仕事だけでなく休日にも充実させ、心を揺さぶられるような体験をしてきてほしいとの思いでこの制度を継続しています。

家族参加の社員旅行

毎年、家族も参加が可能な社員旅行を行っています。行先は観光地だけでなく、被災地や当社ゆかりの地など、プライベートの旅行ではあまり行かないような場所へも訪問しています。2016年は昨年竣工した太陽インキ北九州事業所のある北九州市への旅行に、計408名が参加しました。事業所・工場見学も旅行のコースに盛り込み、家族にも好評でした。

懇親会には幅広い年齢層が一堂に会します。家族にも当社のありのままの姿をお見せしたうえで、安心して毎日仕事に送り出してもらえるような会社であり続けたいと考えています。



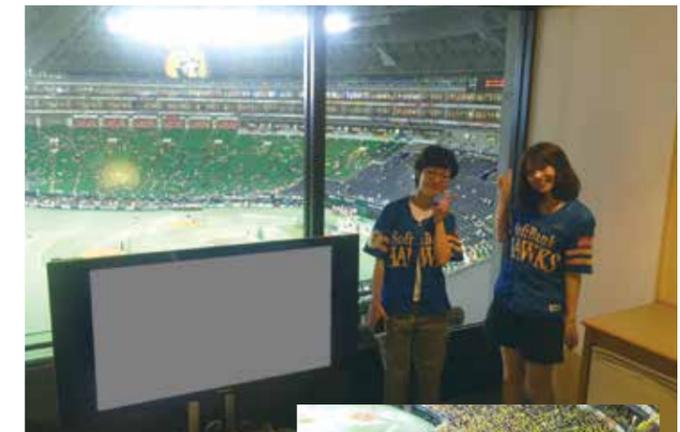
地元のパフォーマー、ご当地キャラクター、社員の余興が懇親会を盛りあげます

健康促進制度

喫煙しない従業員に、健康維持促進手当(月額3千円)を支給する制度です。

レクリエーション制度

社員の親睦を深め、非日常を体験することを目的に年間一人2万円を支給しています。今年も野球観戦や舞妓体験など、各部署で趣向を凝らした企画が実行されました。「楽しい社会を実現」という当社の経営理念に則り、まずは社員自らが楽しむ心を忘れず、それを日常に生かしてもらえたらと思っています。



スーパーボックスで野球観戦！プライベートルームでビュッフェを楽しみながら観戦したり、ドームを見渡せるバルコニーで声援を送ったり、特別空間を満喫



浅草で舞妓体験。華やかな着物をまとい、顔におしろいをはたき、美人舞妓に変身！おしとやかなその姿は、なんと8名中7名が男性社員…？

2016年度CSR活動の実績と今後の目標

「CSR理念」と「行動規範」に基づき、2016年度の主な活動実績と、2017年度の課題・目標についてまとめました。個々の取り組みの詳細につきましては、各掲載ページをご覧ください。

☺: 目標達成 ☹: 着手したが未達成 ☹: 未着手

マネジメント					
取り組み項目	2016年度の課題・目標	2016年度の主な活動実績	評価	2017年度の課題・目標	掲載ページ
内部統制システム	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の内部統制システムの有効性と効率性の向上 新規連結子会社の内部統制システム構築と定着化 	<ul style="list-style-type: none"> 業務プロセスの見直し、手作業が残る業務のシステム化などにより業務効率の向上、財務報告リスクのさらなる低減が図れた 太陽インキプロダクツの内部統制システムを構築、運用を開始 	☺	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の内部統制システムの有効性と効率性の向上 海外子会社における内部統制システムの運用定着と現地化推進 	P10
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> グループ各社における展開促進のための活動サポート コンプライアンス教育および法規制管理に関する活動体制の構築と支援 コンプライアンス活動の社内内外への情報発信 ホットラインの運用を継続、有効性の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽インキプロダクツ、中外化成を含むグループ全社にて活動を推進 管理職者を中心にハラスメント教育を行う、法規制管理に対し、改定情報入手サービスを導入 啓発活動として社内報にコンプライアンスに関する記事を掲載 ホットラインへの相談・通報案件について迅速に対応 	☺	<ul style="list-style-type: none"> グループ全社にわたるコンプライアンス活動の強化 コンプライアンス教育の拡充と法規制管理体制の強化 ホットラインの有効性向上 潜在的リスクの調査と対応 	P10
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な防災訓練を行う 海外におけるBCP体制強化の検討開始 	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点で防災訓練を行った 太陽アメリカでBCP体制強化の検討開始 北九州事業所の安全対策を徹底 	☺	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な防災訓練を行う 海外におけるBCP体制強化 	P11

社会性報告

取り組み項目	2016年度の課題・目標	2016年度の主な活動実績	評価	2017年度の課題・目標	掲載ページ
株主・投資家の皆様	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な安定配当を行う ウェブサイト、CSRレポート、アニュアルレポートなどにより適切な情報開示を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 当期(当社第71期)は、前期と比べ1株につき年間10円10銭の増配を行った 個人株主様向け会社説明会を2回行った 	☺	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な安定配当を行う ウェブサイト、CSRレポート、アニュアルレポートなどにより適切な情報開示を行う 	P12
お客様	<ul style="list-style-type: none"> 製品品質を高めるための「製品設計」「工程設計」「改善活動」を引き続き推進 工程管理基準値の見直し、作業要領の遵守に加え、傾向管理の強化により異常品の流出防止と発生を未然防止を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 製品品質を高めるための「製品設計」「工程設計」「改善活動」を推進 工程管理基準値の見直し、作業要領の遵守に加え、製品・原料の傾向管理強化により異常品の流出防止と発生を未然防止を推進 	☺	<ul style="list-style-type: none"> 製品品質を高めるための「製品設計」「工程設計」「改善活動」を引き続き推進 工程管理基準値の見直し、作業要領の遵守に加え、傾向管理体制をさらに強化し異常品発生を未然防止(予防活動)を推進 	P15
お取引先	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きCSR調達ガイドラインを作成 	<ul style="list-style-type: none"> 調査を継続 	☹	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きCSR調達ガイドラインを作成 	P15
地域・社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・地域貢献を幅広く行う 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学生を工場見学に継続招待し、子どもたちの好奇心の芽を育む活動を行った 地元主催のイベントを積極的に協賛し、地域の盛り上げに貢献 	☺	<ul style="list-style-type: none"> 災害や震災など非常時における地域貢献について取り組む 	P13~14
社員	<ul style="list-style-type: none"> 社員の能力や適性が発揮できる環境や職場づくりを継続 	<ul style="list-style-type: none"> 嵐山事業所の全面リニューアルが完成 各種福利厚生制度を継続、定着させた 	☺	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き多様な社員が働きやすい環境、職場づくりを継続 	P5~8

環境報告

取り組み項目	2016年度の課題・目標	2016年度の主な活動実績	評価	2017年度の課題・目標	掲載ページ
環境活動	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減活動を継続 	<ul style="list-style-type: none"> 工場棟の全面LED化を実現 カーボンオフセットに対応した新作業服への全面切り替え 	☺	<ul style="list-style-type: none"> さらなる電気使用量の削減を目標に新しい取り組みを行う 	P16~22

コーポレートガバナンス

経営の透明性を確保して説明責任を果たし、健全な会社運営を行うために、「取締役会」と「監査役会」を中心とした体制を構築しています。

コーポレートガバナンス体制

社会から信頼される企業として存続するためには、効率的な業務執行体制を構築するとともに、経営の透明性、健全性を高めることが重要であると考えています。経営環境の変化に迅速に対応できる業務執行とその監督の体制を整え、太陽HDグループ経営全般にわたる、企業価値の向上を図っています。

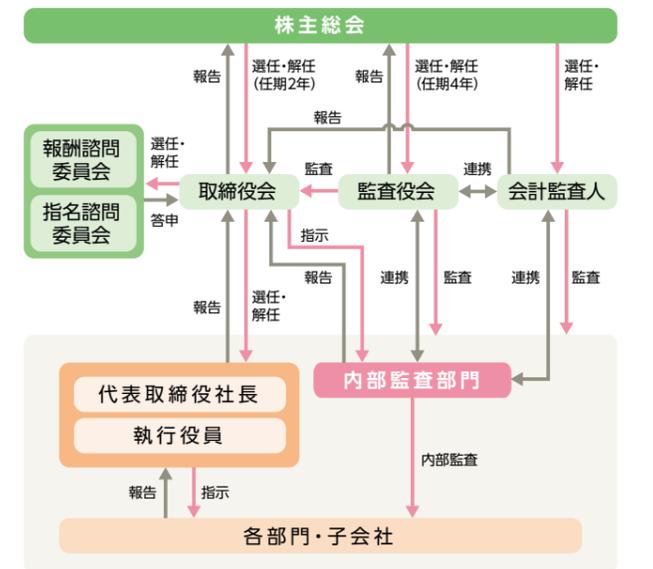
内部統制システム

2016年度は第71期内部統制基本計画書に基づき、以下の重点課題の対応を中心に、内部統制システムの有効性、効率性の向上に努めました。

- 2016年より営業を開始した太陽インキプロダクツの内部統制システムの構築、関連文書の整備を進め、計画どおり運用を開始しました。
- 韓国タイヨウインキの内部統制システムを全面的に見直し、業務効率の向上、財務報告リスクのさらなる低減が図れました。

③北九州事業所の稼働に伴い、業務プロセスの見直しを行いました。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスに関する取り組み

私たちは、法令その他の社会的規範を遵守し、公明かつ公正な活動を行い、社会から信頼される企業を目指します。

コンプライアンス活動

近年、企業コンプライアンスは社会における企業の評価基準の一つとして重要視されています。太陽HDグループは社内組織、社員一人ひとりの倫理・法令遵守意識を高め、今まで以上に社会から信頼される企業を目指し、活動を推進しています。

当社グループの「CSR理念」および「行動規範」を社員が理解し、その精神に沿った活動が維持されるよう社内組織であるコンプライアンス推進組織を中心に啓発活動を行っています。2016年度はコンプライアンス教育、並びに法令や規制の改定対応に注力するとともに、当社グループに太陽インキプロダクツ、中外化成が加わったことを受け、2社における倫理・法令遵守における体制整備を行い、活動を開始しました。

コンプライアンス教育

社員の倫理・法令遵守意識の向上を目的に、部署ごとに年間計画を策定し、業務に沿った教育を行っています。

2016年度は外部講師を招き、管理職者を中心にセクシャルハラスメント、パワーハラスメントに関する社内セミナーを開催しました。社員からのハラスメントにおける声に対し、どのように受け止め、対応するかを考える良い機会となりました。

2017年度もコンプライアンス教育を継続し、より一層、企業コンプライアンスを高めていきます。



社内セミナーの様子

リスクマネジメントに関する取り組み

事業活動に伴い発生する様々なリスクに対して、適切な対応措置の検討、整備を行ってまいります。

コンプライアンス

企業活動において法律や規制を把握し、遵守することはとても重要です。太陽HDグループは化学物質を多く取り扱い、海外への製品輸出も行うため、国内外における法律や規制の制定、改定情報を速やかに入手し、活動に反映させる必要があります。化学物質においては専門部署を中心に関係部署と連携した対応を推進しており、化学物質以外に関する法令についても各部署が自主的に法令情報を入手、対応する活動を行っています。

各部署のコンプライアンス活動は年間報告と年1回の内部監査により状況を把握し、課題が発見された場合には、速やかに是正対応を行います。

また、組織や個人における法令違反や反社会的行為、ハラスメントの問題は顕在化しにくい場合があります。このようなリスクを抽出し、迅速に対応するために、当社は相談・通報制度であるホットラインを運用しています。ホットラインは社内独立組織として、相談・通報者の保護を重視した対応を行っています。

さらに、コンプライアンス組織は3年に一度、全社員を対象としたリスク調査を実施し、社員一人ひとりが感じているリスク要素を抽出し、改善対応を検討しています。

北九州事業所でのリスクマネジメント活動の取り組み

北九州事業所では定期的に防災訓練や安全教育を実施するとともに、6S委員会*を設置し、普段から安全意識向上やリスク低減の活動を行っておりますので、それらについてご紹介します。

*5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に安全(safety)を追加した活動。

■防災訓練など

2015年の竣工以来毎年防災訓練を行っておりますが、今年は三菱ケミカル株式会社黒崎事業所(以下、三菱ケミカル様)での地震発生を想定した防災訓練に参加しました。



防災訓練の様子

地震発生時には机の下など安全な場所で身を守り、揺れが治まった後はヘルメットを被り安全を確保したうえで、決められた避難場所に迅速に集合ができました。訓練後には火災発生を想定して三菱ケミカル様の関係部署への通報手順を模擬演習し、有事の際の対応について情報共有しました。

■フォークリフト安全運転技能講習

運転技術向上と安全運転を目的に、熟練社員の指導のもと事業所内にコースをつくり、危険動作の有無のチェックや所定位置で積み荷の上げ下ろしをするフォークリフト安全運転技能講習を行いました。

作業効率を重視するあまり危険運転をすることがないように戒めるとともに、安全運転の必要性を周知徹底しました。これからも定期的に講習を行い、安全への意識向上に努めていきます。



技能講習の様子



乗車前の周囲の安全確認

■6S委員会の活動

6S委員会では毎月各エリアの担当者が集まり、事業所内を巡回し業務改善活動や危険な箇所の抽出・対策をする活動を行っています。今年度は56件の改善活動を行い、リスク要因を排除することができました。今後も6S活動を通してさらに安全な事業所を作り上げ、無事故無災害を目指します。



階段と扉の間にスペースがなく、反対側から急に扉が開いた場合、階段から足を踏み外す危険がある



扉の反対側に警告文を掲示し、急な開閉をしないよう注意喚起することで、転倒のリスクを軽減する

株主の皆様との関わり

利益の配分ならびに適切なコミュニケーションを通じて、株主の皆様の「幸福と繁栄」に寄与します。

利益の配分について

太陽HDでは、株主の皆様への現金による利益還元を重要政策と位置付けており、継続的かつ安定的に高水準の利益還元を実施しています。具体的には株主資本配当率を目標指標とし、「連結決算を基準に株主資本配当率を中長期的に5%以上とすること」を目処としています。

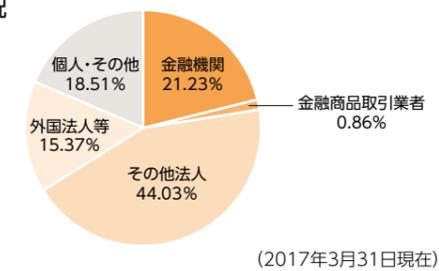
なお、2016年度は年間配当額を1株あたり10円10銭増額し、合計120円10銭とさせていただきました。自己株式の取得についても株価水準、需給動向などを見極めながら検討をさせていただきます。

●株式の状況

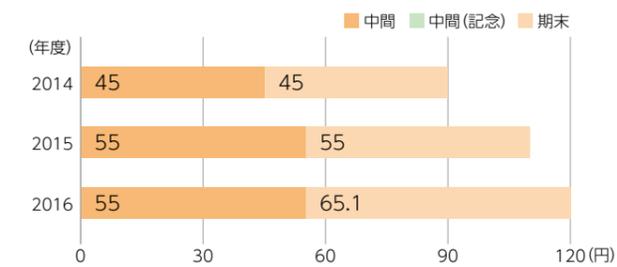
発行済株式数	株主数
28,841,100株	4,757人

(2017年3月31日現在)

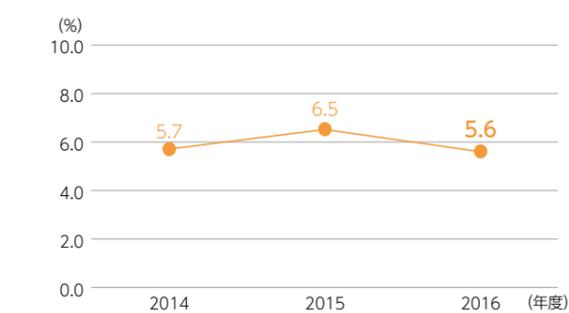
●株式分布状況



●1株あたりの配当の推移



●株主資本配当率の推移(連結)



IR活動

投資判断に有効な情報を株主・投資家の皆様にお届けするため、正確性・公平性・迅速性を確保したIR活動の実施を基本方針としています。

具体的な活動として、ウェブサイトでのIR情報の提供、アニュアルレポートの発行、アナリスト・機関投資家向けの決算説明会開催、機関投資家との個別ミーティングなどを実施しています。また、決算発表の早期化を継続しており、決算説明会は決算発表当日に行うなど、情報開示の迅速化にも努めています。

開かれた株主総会

2016年6月21日、第70回定時株主総会を開催しました。当社の定時株主総会は、多くの株主の皆様にご出席いただきたいという思いから、株主総会が集中する期間の約一週間前に開催しています。また、招集ご通知の早期発送や、インターネット・携帯電話による議決権行使の採用など、より多くの株主の皆様にご参加いただけるような環境の整備を実施しました。

なお、株主総会の模様は、ウェブサイトのオンデマンド配信により、当日ご出席いただけなかった株主の皆様をはじめ、報道関係の方など、どなたでもご覧いただくことができます。

定時株主総会後の懇談会中止について

当社は、これまで毎年開催しておりました定時株主総会後の懇談会について、遠方などの理由でご出席できない株主の皆様にもより平等な利益還元を図るため、2017年度より中止することとしました。

なお、「個人株主様向け会社説明会」は、今後も継続して開催する予定です。2016年度は、2016年5月31日および2017年1月31日の2回開催し、多くの株主の皆様にご参加をいただき、当社の事業や戦略についてご説明させていただくとともに、様々なご意見を賜りました。今後も適切な情報開示を行い、株主の皆様との積極的なコミュニケーションを図ってまいります。

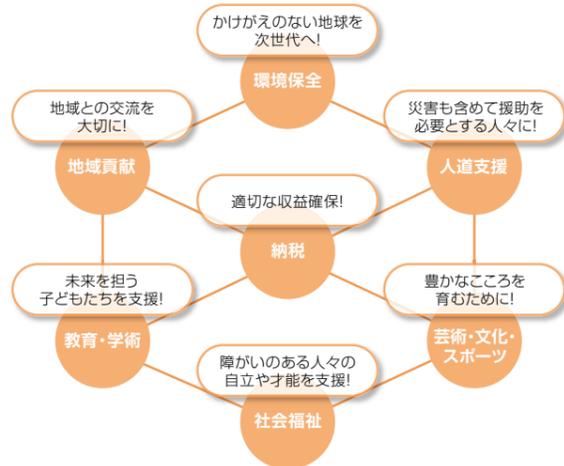
地域・社会との関わり

地域社会と地球環境との調和を目指し、企業市民として様々な社会貢献活動に、積極的に取り組んでいます。

社会貢献に対する基本的な考え方

社会の一員として、社会の発展に寄与すること。これも企業が果たすべき大切な責任のひとつです。限りある資源を次の世代に残し、関わる人の心を豊かにし、共に成長する企業であり続けるため、太陽HDグループ各社が連携し幅広い活動に取り組んでいます。

●太陽HDグループが目指す社会貢献



2016年度 地域・社会貢献活動概要

活動項目	実施時期	内容
嵐山町成人式	1月	記念品の提供
練馬みどりの葉っぱい基金寄付	4月	練馬区の自然保護活動への協力
障がい者支援団体協賛	9月	障がい者が運営する団体の活動への協賛
嵐山町民体育祭	10月	賞品の協賛
日赤献血活動	10月	輸血を必要としている患者さんの尊い命を救うための活動
「七つの祝」式典	11月	記念品の提供
日本赤十字(募金)	11月	人間の命と健康、尊厳を守るための活動に協力
赤い羽根共同募金	11月	地域福祉の推進を支援
日本ユニセフ協会(募金)	11月	子どもたちの権利が守られる世界を実現するための活動に協力
嵐山まつり	11月	模擬店の出店や祭りの運営に協力
工場見学	11月	小学生の社会科見学受入れ
保育所の設置	通年	地域の子どもたちも受入れ
学校教材への協力	通年	社会科副読本「らんざん」への掲載協力
イベント協賛	通年	スポーツイベントなどへの協賛金の拠出
義捐金・救援金寄付	通年	海外を含めた激甚被災地への復旧支援
嵐山町町内小中学校PTA資源回収協力	通年	教材費用などへの活用を目的として廃段ボールを提供
エコキャッププロジェクト	通年	ペットボトルのキャップを集め、世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に協力
使用済み切手収集	通年	使用済み切手を集め、施設や団体に寄付
アマチュアスポーツ選手支援	通年	資金が潤沢ではないスポーツ選手を支援

社会貢献活動

■献血サポーター

近年の少子高齢化に伴う献血者の減少、輸血者の増加などにより、血液不足が深刻化しています。血液は人工的に作ることができないため、継続的な献血を実施し、必要な血液を確保しておく必要があります。

太陽インキ本社は、厚生労働省の献血推進対策に賛同し、献血サポーターとして社員へ献血活動への理解と協力を呼びかけています。また、太陽HDグループの他拠点に勤務する社員も毎年巡回献血に協力しています。



巡回献血の様子



■イベントへの協賛

当社グループでは、日頃からお世話になっている地元の皆様への感謝の気持ちと、地域社会活性化の一役になればとの思いから、各種イベントへの寄付や協賛などで運営の協力をしています。



小川和紙マラソン大会の様子

2016年度は、太陽HD本社の地元で開催された「練馬こぶしハーフマラソン」や太陽インキ本社の近郊地域で行われた「日本スリーデーマーチ」「小川和紙マラソン大会」などのスポーツイベントに協賛しています。文化イベントでは、地元地区のお祭りをはじめ、「嵐山まつり」への出店、「嵐山さくらまつり」「東松山火花大会」「小川町七夕まつり」などに協賛しています。各種イベントには



「嵐山さくらまつり」で花火打上げを協賛

は多数の従業員が積極的に参加し、従業員にとっても部署を越えた交流の場になっています。

地域貢献活動

■地域活性化への貢献

太陽インキ本社および嵐山事業所が位置する埼玉県嵐山町は、木曾義仲や山重忠など、日本史に名を残した坂東武者ゆかりの地です。その歴史と伝統を継承する文化まつり「嵐山まつり」に、毎年模擬店を出店しています。

2016年度は子ども向け玩具・遊具の販売のほか、唐揚げの販売と化学実験教室の開催など、様々な活動を通じて地域の皆様との交流を図ることができました。なお、当日の売上金は全額社会福祉協議会へ全額寄付し、社会福祉の向上に役立てていただきました。



「嵐山まつり」に出店した模擬店

VOICE 化学実験教室

「嵐山まつり」や社会科見学では化学実験教室を行っています。「嵐山まつり」では水に溶いたほう砂と洗たくのりを混ぜるとできる「スライムづくり」をメインに行いました。



スライムづくりに一生懸命の子どもたち

社会科見学ではソルダールレジストについて理解を深めてもらうため、光を当てると性質が変わる感光性樹脂シートを使って「スタンプづくり」を行いました。絵柄の

■社会科見学の受入れ

太陽インキ本社では地元の小学校の社会科見学として、埼玉工場に子どもたちを受入れ、当社製品についてわかりやすく説明するとともに、工場見学や化学実験教室を行っています。嵐山町教育委員会が発行している小学校3・4学年向け社会科副読本に、今年度より社会科見学の題材として太陽インキが掲載されています。今後も地域に根差



説明に熱心に耳を傾ける小学生

した次世代の人材育成に貢献していくため、子どもたちに教育・経験の機会を継続して提供していきます。

描かれた透明シートを感光性樹脂シートの上のせて光を当てると、感光性樹脂シート上の光が当たったところだけ水に溶けなくなり、絵柄の形のスタンプができるというもので



どんな絵柄のスタンプに!?

す。子どもたちは絵柄がうまく出ると歓声を上げて喜んでいました。子どもたちが化学に関心を持つきっかけになってくれたらうれしいです。

2016年春入社社員一同

環境保全活動

■地域清掃活動

太陽インキ本社は「彩の国ロードサポート」に登録し、国道254号線を中心とした清掃活動を行っています。清掃活動を通して地域の美化に貢献することは、社員の環境に対する意識向上にもつながっています。嵐山町の自然とそこに暮らす生物を守るためにも、今後も地域の清掃活動を継続していきます。

この日もカブトムシやクワガタなど多くの昆虫を観察することができました。

また、10月には社員が稲刈り体験に参加し、地元の子どもたち、板橋区内から参加した子どもたちとの交流を深めることができました。今後も引き続き地域環境の保全、地元の方々との交流活動を続けていきます。



国蝶「オオムラサキ」



稲刈り体験の様子

■地元のボランティア活動への参加

2016年7月に地元のボランティア活動団体とともに国蝶「オオムラサキ」の観察会を行いました。幼虫の姿で越冬したオオムラサキは、春から夏にかけてサナギから成虫へと成長します。この季節は様々な生き物に出会うことができ、

お客様との関わり

太陽インキではISO 9001:2008に基づいた品質マネジメントシステムを適用して、品質保証、品質管理、品質改善の活動を行い、お客様にご満足いただける品質と安全性を確保し提供しています。

マネジメントシステムの改善

2016年度は、「事業活動とQMS^(※1)とEMS^(※2)での統一課題」を目標とした活動、また基本に立ち返るということとで5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に力を入れた改善活動を行ってきました。

2017年度は、ISO 9001 (QMS)、ISO 14001 (EMS) マネジメントシステムの2015年度版への移行に加え、傾向管理^(※3)を強化することにより、事後の是正処置ではなく、リスクの事前抽出からの予防(改善)活動を推進することによって、事業に有益な改善活動を行います。

製品のインプットからアウトプットまでのチェック項目

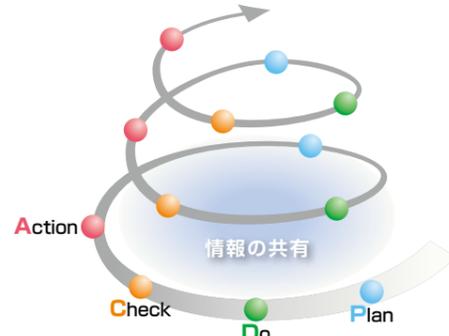
- ①原料受入検査(安定した生産の確保)
原料の受入検査において、積極的に傾向管理^{※3}を取り入れ、安定した生産が行えるように、品質管理強化を継続して実施します。
- ②工程内チェック項目の安定化
製品のでき栄え(製品品質)確認は製品検査だけに頼るのではなく、工程管理基準値の見直しと工程内のチェック体制強化をすることで品質の作り込みを行っています。
- ③製品検査(安定した製品の提供)
規格の適合性検査だけではなく、傾向管理に力を入れ、品質の安定した製品をお客様に提供できるよう努めています。

お客様からの声の活用

お客様から寄せられる苦情をはじめとする様々な声は、品質向上の絶好の機会ととらえています。

お寄せいただいた声は取りこぼすことなく原因を究明し対策を講じることで、今まで以上に質の高い製品の提供に日々努めています。

●お客様との情報共有に基づく品質改善



- 用語解説**
- ※1 QMS: 品質マネジメントシステム
 - ※2 EMS: 環境マネジメントシステム
 - ※3 傾向管理: 規格の合否判定だけでなく、実測値がどのように推移しているか確認し、不合格になる前に対策を講じ、安定した品質を維持する活動

お取引先との関わり

グリーン調達基準に基づき、環境と安全性・品質安定性に配慮した原材料の調達を行っています。

購入先評価と立ち入り監査の実施

お取引先との信頼関係の構築・強化のためにお取引先にご協力をいただき、今年も立ち入り監査を実施しました。

監査は主に購買課、品質保証部にて構成されたメンバーで行い、場合によっては製造技術・設計部門も加わり、原料および副資材の品質向上を目的に実施しています。

監査の実施結果

2016年度は、お取引先7社の監査と7社の工場見学・立ち会い試験を実施しました。

- ①品質不具合のフォローアップ 3社
- ②原料安定供給確認 4社
- ③生産工程の見学、試験 7社

お取引先の監査および外注先での立ち会い試験を通じて、当社製品の用途や原材料に要求される品質をご理解

いただき、生産に活用していただいています。また、訪問先にてお取引先の環境管理物質への取り組みおよび環境負荷物質の管理について確認させていただき、変更などが生じた場合に都度、対象の物質が含まれていないかご報告いただくことをご理解していただきました。

下請法の遵守

公正取引委員会からの「下請事業者との取引に関する調査」について、積極的に協力しました。

下請法対象の8社に対して取引を行う際に、以下の事項を十分考慮して対応しています。

- ① 下請代金支払遅延等防止法の遵守
- ② 金融繁忙期の資金繰りへの配慮
- ③ 下請事業者の利益の確保
- ④ 原材料価格等の上昇への配慮
- ⑤ 消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保

環境方針と環境マネジメントシステム

環境基本理念に基づき、環境方針を定めて内外に公表するとともに、太陽HDグループのすべての経営資源を結集し、人・環境・社会が共生する「ものづくり」を推進しています。

環境活動における基本的な考え方

太陽HDグループは、CSR行動規範に「環境の保全」として環境基本理念を定め、「私たちは、社会的責任遂行の一環として地球環境保全に努め、環境と調和した事業活動を行います。」と明言しています。環境マネジメントシステムを通して人々の安全と健康、かけがえのない地球環境を

守ることが経営上の重要な課題のひとつであると認識しており、環境経営の実現に向けて、この認識を役員および全社員と共有し、活動しています。

以下は、日本の生産拠点である太陽インキの環境基本理念と環境方針です。



環境負荷低減の取り組み

化学物質によって実現できる豊かさを得た一方、地球環境や人々の健康に与える影響を考慮し、高機能かつ環境負荷の低減を両立した「ものづくり」に取り組んでいます。

嵐山水上太陽光発電所の発電効率

「エネルギーの消費者から生産者へ」という新たな取り組みのもと、太陽GEが運営している嵐山水上太陽光発電所が操業2年目を迎えました。

一般的に太陽光発電の発電効率は温度の影響を受け、温度が上昇する夏場には低下する傾向にあります。従ってなんらかの方法で太陽光パネルの温度を下げることで、高い発電効率を得ることができます。

太陽GEは、太陽光発電所を水上に設置することでこの難題に挑戦しました。池底に打設したアンカーから伸ばしたワイヤーで、設置したパネルを固定する池底アンカー方式は高度の施工技術を必要とし、施工事例も少ない難しい工事でしたが、大規模な造成を行うことなく既存の自然環境を維持しながら、一般家庭約390世帯に相当する電力量を高効率で発電することが可能となりました。



嵐山水上太陽光発電所

嵐山水上太陽光発電所の概要

所在地：埼玉県比企郡嵐山町花見台1-1第3調整池
出力規模：1,153kW
パネル枚数：4,522枚
発電開始：2015年10月

環境に対する効果

発電量：約390世帯分
CO₂削減量：約420トン/年
パネル設置工法：池底アンカー方式
(自然環境や景観を損なうことが少ない)

TOPICS 太陽光発電所を嵐山町へ寄付

当発電所は、嵐山花見台工業団地内の調整池を嵐山町から借用して運営しています。隣接する嵐山花見台工業団地管理センターは、非常時には160人を収容することが可能な町の避難施設に指定されており、ここにリチウムイオン蓄電池を備えた太陽光発電設備を寄付しました。この功績が認められ、嵐山町から2016年の功績表彰を受けるとともに紺綬褒章*を受章しました。

当社グループは引き続き、地球温暖化対策やエネルギーの確保、環境汚染への対処などが期待される「再生可能エネルギー」の普及促進に努め、企業の社会的責任を果たしてまいります。

*公益のために私財を寄付し、功績が顕著な個人または法人・団体に対し、日本国政府より授与される褒章。

冷房専用チラーの更新

太陽インキ本社では、空調の熱源として利用するチラー*の更新を行いました。今回の更新の目的は、チラー各機器の更新時期に基づくものですが、あわせて省エネルギーに対応した設計のものに置き換えることにより、使用電力の削減も図りました。これにより、前年まで当事業所において電気使用量全体の50%超を占めていた空調動力を、約20%まで大幅に圧縮することができました。

今後も各種設備の更新にあたり、その機能や性能だけでなく、環境面にも配慮された設備の更新を進めていきます。

*冷温水などを配管で循環させることによって、設備機器の温度を一定に保つための装置。



更新した冷房専用チラー

北九州事業所での環境に関する取り組み

北九州事業所は、当社の主力製品のひとつであるドライフィルム型製品の国内初の量産工場として、北九州市八幡西区に建設されました。地域の皆様から愛される工場であるために、また次世代に美しい環境を引き継ぐために、3つの取り組みのもと、環境に配慮した工場づくりを進めています。



北九州事業所 工場棟の外観

北九州事業所の3つの取り組み

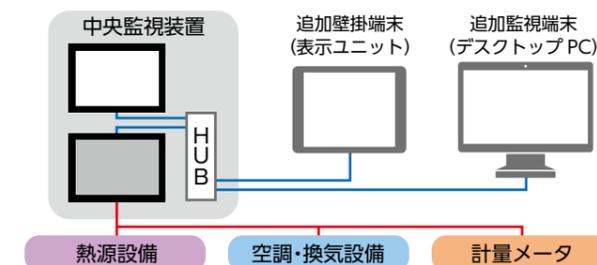


①エネルギー使用量の可視化

～中央監視装置による無駄のないエネルギーの利用～

中央監視装置とは、空調・衛生・ユーティリティ設備・受変電・防災設備等の各種機器を総合的、効率的に監視・制御を行う装置のことで、室内環境およびエネルギーの計測モニタリングを集中管理でき、エネルギー使用実績を可視化することができます。

これにより、エネルギー消費の多い時間帯や時期を分析し、例えば生産がない時間帯には空調機を非作業モードに切り替えることで、排気運転を停止し取り込む



中央監視装置のイメージ

外気を必要最低限に抑え、空調負荷を抑えるなどの細かなコントロールができます。

②省エネルギー化

～高効率機器の導入による省エネの実現～

北九州事業所の竣工にあたり、高効率機器を数多く導入しました。高効率モジュールチラーもそのなかのひとつで、空調および生産機器を冷却する冷却水の供給機器です。今回採用した高効率モジュールチラーは、A重油焚き吸収式冷凍機と比較した場合、試算で年間のCO₂削減量が約174.2t/年となり、経済的で環境に優しい機器といえます。また、その他にも各種の高効率機器を積極的に導入しており、事業所全体で省エネに力を入れています。

年平均省エネ率(試算)

空冷式ヒートポンプパッケージエアコン(55台)	: 1.1~7.8%
上水加圧給水ポンプ(1台)	: 1.5%
空調機(7台)	: 1.1%
コンプレッサー(2台)	: 7.3%



4基の高効率モジュールチラー



高効率モジュールチラーでつくられた生産用の冷却水を貯めるタンク

③エネルギーの再利用

～廃熱の有効活用～

工場内での加湿や生産設備の加温のため、蒸気を使用しています。この蒸気から約80℃のドレン(蒸気が熱を失って凝縮した水)が発生しますが、そのまま捨てるのではなく、蒸気ドレンタンクに一旦貯めて熱交換器を経由することで、温水製造に再利用し、年間約100tの蒸気を削減できます。

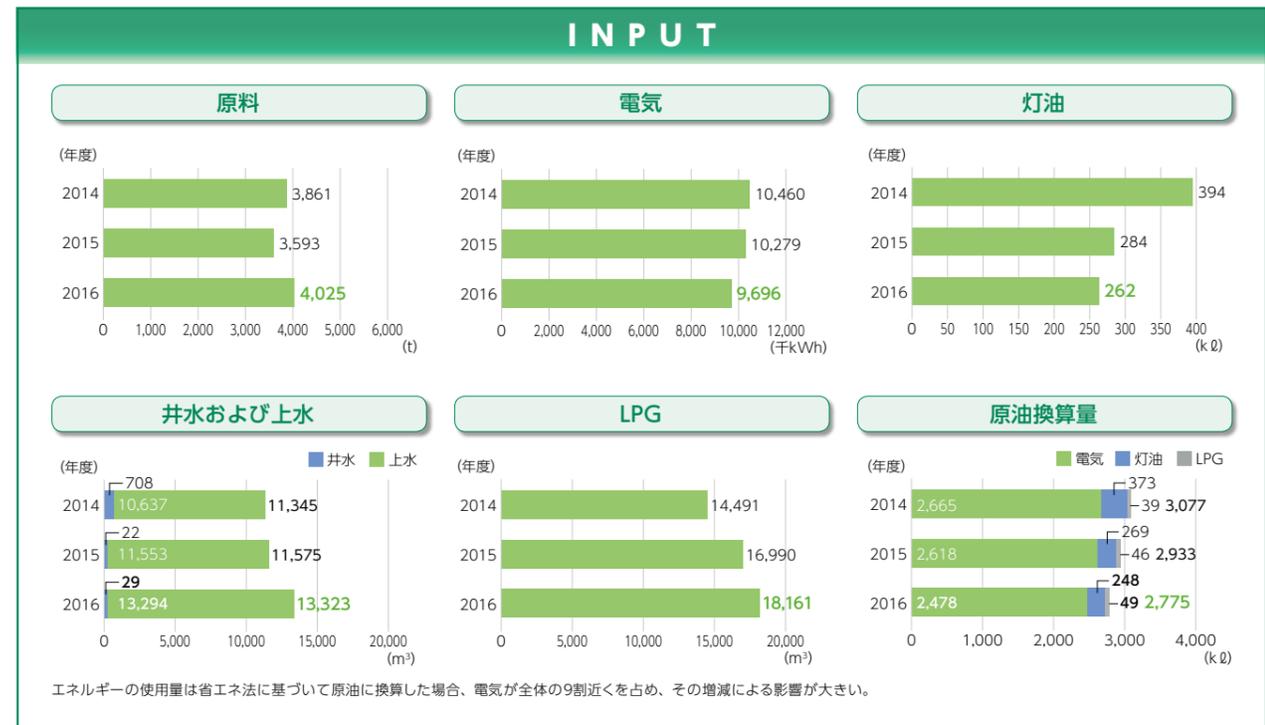
その他にも熱交換器の導入により、生産機器からの排気と外気を熱交換し、外気の温度を調整してから工場内に取り込むことで空調負荷を軽減することができます。これにより、年間で最大77.5×10⁷KJのエネルギー削減が可能となりました。



蒸気ドレンタンク

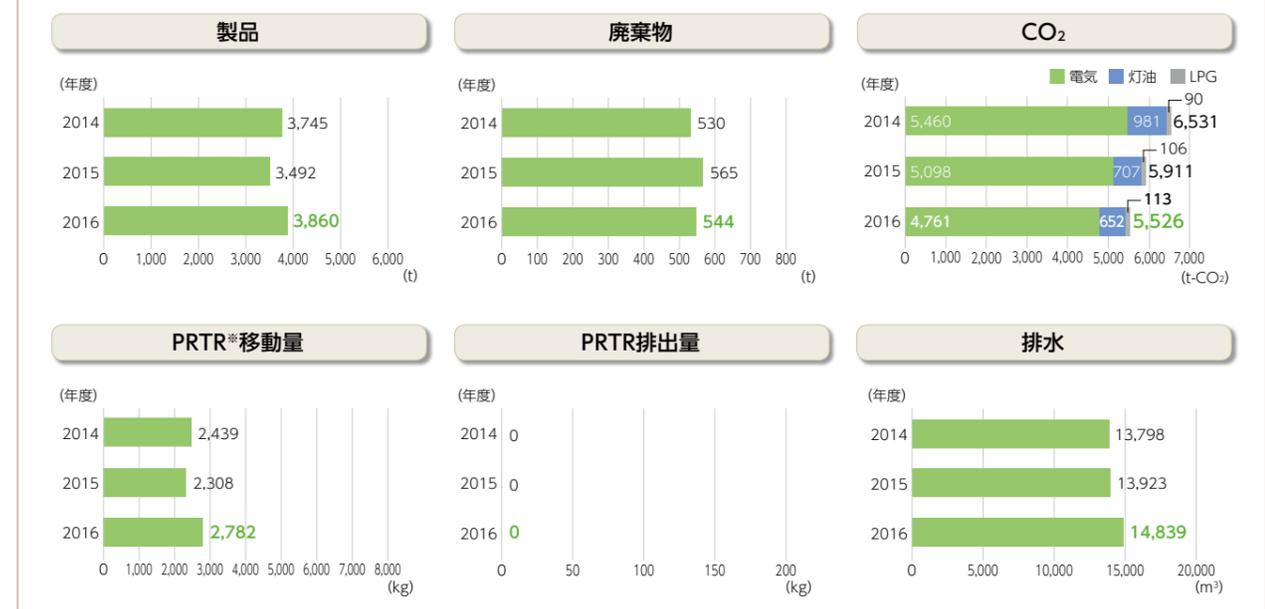
事業活動と環境との関わり

事業活動において、どれだけ資源やエネルギーを使用(INPUT)しているか、どのくらいのCO₂や廃棄物などを発生(OUTPUT)させているかデータを把握し、分析しています。



※北九州事業所は未測定

OUTPUT



※北九州事業所は未測定

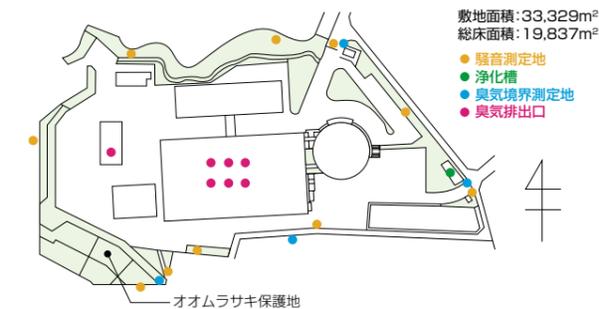
用語解説

※PRTR: Pollutant Release and Transfer Registerの略
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

法規制測定データ集

法規制に基づく測定を定期的に行い、周辺環境への負荷を監視することで、事業活動に伴う環境負荷の低減を図ります。

太陽インキ製造本社 埼玉県比企郡嵐山町大字平澤900番地



● 社外臭気(悪臭防止法/埼玉県条例*1)

測定箇所	規制値	2014年度	2015年度	2016年度	
		敷地境界線	15以下	10未満	10未満
臭気指数 排出口	E-1011	35以下	26	27	31
	F-1001	39以下	27	25	24
	第二工場	31以下	12	10未満	12未満
	E-1021	42以下	36	34	29

● 騒音(騒音規制法*2/埼玉県条例)

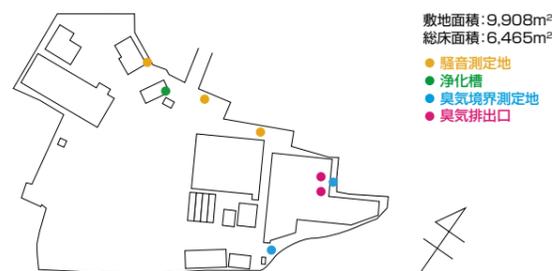
測定箇所	規制値	2014年度	2015年度	2016年度	
		東側	43	42	42
朝	50以下	南側	43	42	43
		西側	43	40	43
		北側	42	41	41
昼間	55以下	東側	45	44	41
		南側	52	50	46
		西側	46	43	43
夕	50以下	北側	44	43	43
		東側	45	43	45
		南側	47	42	49
夜間	45以下	西側	44	40	41
		北側	42	41	42
		東側	44	42	43
		南側	42	43	44
北側	43	42	40		

● 合併浄化槽(浄化槽法・水質汚濁防止法/埼玉県条例)

項目	単位	規制値	2014年度	2015年度	2016年度
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	160以下	9.2	12.4	12.5
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25以下	3.9	4.7	7.1
浮遊物質(SS)	mg/L	60以下	7.0	8.7	5未満
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	7.2	6.8	6.8
大腸菌群数	個/cm ³	3,000以下	30未満	40.5	30未満
銅	mg/L	3以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
亜鉛	mg/L	2以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
溶解性鉄	mg/L	10以下	1未満	1未満	1未満
溶解性マンガン	mg/L	10以下	1未満	1未満	1未満
全クロム	mg/L	2以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
全窒素	mg/L	120以下	18.0	25.8	36.0
全リン	mg/L	16以下	2.6	2.6	3.7
ノルマルヘキサン抽出物質	mg/L	30以下	2.2	2.5	2.5未満
シアン化合物	mg/L	1以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
鉛およびその化合物	mg/L	0.1以下	0.1未満	0.1未満	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
四塩化炭素	mg/L	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満
ふっ素およびその化合物	mg/L	8以下	0.8未満	0.8未満	0.8未満

用語解説

※1 埼玉県条例: 埼玉県生活環境保全条例
※2 騒音規制法: 騒音規制に関する法律



● 社外臭気(悪臭防止法/埼玉県条例)

	測定箇所	規制値	2014年度	2015年度	2016年度
臭気指数	技術棟排出口	40以下	14	17	-
	技術棟排出口	40以下	14	22	-
	敷地境界線No.1	18以下	10未満	10未満	-
	敷地境界線No.2	18以下	10未満	10未満	-

※「社外臭気」の測定箇所は2016年度、改修工事中です。

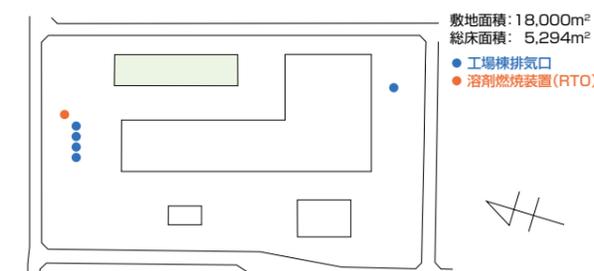
● 騒音(騒音規制法/埼玉県条例)

		(dB)			
	測定箇所	規制値	2014年度	2015年度	2016年度
朝	東側	50以下	45	45	45
	北側		44	43	43
	西側		42	44	45
昼間	東側	55以下	45	45	45
	北側		44	43	42
	西側		45	45	45
夕	東側	50以下	45	44	44
	北側		43	40	41
	西側		43	40	44
夜間	東側	45以下	44	44	44
	北側		43	40	40
	西側		42	42	44

● 合併浄化槽(浄化槽法・水質汚濁防止法/埼玉県条例)

	項目	単位	規制値	2014年度	2015年度	2016年度	
生活環境項目	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	160以下	10	17	17	
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25以下	27.7	11.5	14.3	
	浮遊物質(SS)	mg/L	60以下	10.3	6.1	12.7	
	水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	7.2	7.2	7.6	
	大腸菌群数	個/cm ³	3,000以下	6,484	608.3	831.3	
	銅	mg/L	3以下	0.03未満	0.03未満	0.03未満	
	亜鉛	mg/L	2以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満	
	溶解性鉄	mg/L	10以下	0.1	0.1未満	0.4	
	溶解性マンガン	mg/L	10以下	0.1未満	0.2	0.1未満	
	全クロム	mg/L	2以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満	
	全窒素	mg/L	120以下	21	21	17	
	全リン	mg/L	16以下	2.0	3.7	1.4	
	有害物質	ノルマルヘキサン抽出物質	mg/L	30以下	2.5未満	2.5未満	2.5未満
		シアン化合物	mg/L	1以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満
鉛およびその化合物		mg/L	0.1以下	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
六価クロム化合物		mg/L	0.5以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満	
四塩化炭素		mg/L	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	
ふっ素およびその化合物		mg/L	8以下	0.2未満	0.2未満	0.2未満	
ほう素およびその化合物	mg/L	8以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満		

※「合併浄化槽」における実測値は、同一年度内に実施した全測定の平均値。ただし、「未満」と記載のあるものは測定限界値以下をあらわす。



● 揮発性有機化合物濃度

		(volppmc)		
	測定箇所	排出基準	2016年度	
揮発性有機化合物濃度	工場棟排気口	600	北側①	8.3
			北側②	7.5
			北側③	8.4
			北側④	7.6
	溶剤燃焼装置(RTO)	入口	5.8	1,100
			出口	15



工場棟排気口 北側①~④



工場棟排気口 南側



溶剤燃焼装置(RTO)